



京都市 生物多様性 プラン

2021-2030

令和3年3月



京都市
CITY OF KYOTO



京都市生物多様性プラン（2021-2030）の策定に当たって



「生物多様性なくして京都なし」。

ここ京都の先人たちは、自然と共生する暮らしの中で、生物多様性の恵みを享受し、多様な文化を発展させ、今日の京都を表現してきました。

市域の約4分の3を森林が占め、鴨川、桂川、宇治川などの清らかな川が市内を貫流する京都では、古くから、人々が自然を慈しむ中で、自然や生きものをふすま絵や着物の文様に取り入れ、また、茶の湯や生け花、食を通じて季節感を楽しむなど、世界に誇る文化を育んできました。

自然からの恵みは、衣食住をはじめとする私たちの暮らしを支え、その営みが、多様な生きものが息づく里地里山を形成してきました。

時に自然は、河川の氾濫や土砂崩れなど、人々の暮らしを脅かすこともあります。現在では、科学技術の発展により予防や対策が一定程度できるようになり、自然の厳しい側面が日々の生活の中で感じにくくなりつつありますが、同時に、自然や生きものに対する感受性も薄れ、自然との“つながり”まで見えにくくなっています。人間は生態系の一員であり、自然とつながりを再認識しなければなりません。

先人の方々が培ってきた、自然と共生する知恵や文化が息づく京都であり続けるためには、さらに、そのことを大切に、新たな時代における「人と自然との関係」を再構築しながら生物多様性を保全する、自然との共生が求められます。

進取の気風を取り入れ発展してきた京都だからこそ、自然と人の暮らしや文化が調和する、新たな「自然共生社会」の実現を目指す。このような思いの下、この度、「京都市生物多様性プラン（2021-2030）」を策定しました。

本プランは、生物多様性を保全し、自然からの豊かな恵みを未来へと引き継ぐための“行動”を起こす指針となるものです。

本プラン、地球温暖化対策計画及び循環型社会推進基本計画の3計画をより一層連携させ、京都のかけがえのない自然、そして、そこに息づく生きものたちと共生するまちづくりを進めます。そして、持続可能な社会を目指す国際目標「SDGs」の達成、また、あらゆる危機に粘り強くしなやかに対応し、人々がいきいきと暮らせる、魅力と活気に満ちた都市「レジリエント・シティ」の実現にも貢献してまいります。

皆様の御理解、御協力をお願い申し上げます。

結びに、本プランの策定に多大なお力添えをいただいた「京都市環境審議会」の委員をはじめ関係者の皆様、貴重な御意見や御提案をお寄せくださいました全ての皆様に、心から感謝申し上げます。



京都市長 門川 大作

目 次



第 1 章 プランの目指すもの

1.1 基本方針	02
1.2 プランが目指す方向性	03
1.3 プランの位置付け	07
1.4 他分野の関連計画との関係	07
1.5 計画期間	07

第 2 章 京都市における生物多様性の重要性と課題

2.1 生物多様性とは	10
2.2 生物多様性の重要性	11
2.3 京都市における生物多様性との関わり	13
2.4 京都市の自然環境の特徴	16
2.5 京都市におけるこれまでの取組	17
2.6 京都市の生物多様性の課題	18
2.7 生物多様性をめぐる国内外の動向	22
2.8 課題解決に向けた視点	23

第 3 章 2050 年のあるべき姿

3.1 2050 年のあるべき姿	26
3.2 2050 年までに達成すべきこと	27

第 4 章 2030 年度までの目標と施策

4.1 2030 年度までの目標	30
4.2 2030 年度までの施策及び取組	31
4.3 推進プロジェクト	44

第 5 章 評価方法

5.1 評価方法	48
----------------	----

第 6 章 私たちにできること

6.1 一人ひとりにできること	50
6.2 各主体にできること	52

第 7 章 推進体制と進行管理

7.1 庁内における連携	58
7.2 生物多様性保全検討部会	58
7.3 各主体との連携	58
7.4 プランの見直し	58

